



1、新章

「神社にまつわる歴史・文化」

みなさんの身の回りに神社はありませんか？または、神社に参拝したりお祭りに出向いたりはしませんか？

今月号から、神社がもともとのどのような歴史的背景から存在してきているのか、それに伴い生まれた文化など、神社に焦点を当てた「歴史を歩く」を執筆していきたいと思えます。

2、神様はいつ頃から存在しているのか？

そもそも神様という存在を崇拝しはじめたきっかけとは、いつの頃かご存知でしょうか？

日本には、古事記や日本書紀など、日本の神話が描かれた書物があり、多くの神社には、その神話に登場する神様達が祀られていることは、みなさんご存知かと思

ます。しかし、神様を崇拝する行為のおおもとは、古くは縄文時代にまでさかのぼるといわれています。

3、縄文時代は何を崇拝するのか？

縄文時代と神様がつながっていると聞いてもすぐには結び付かないと思います。日本人が、岩、山、大木、川、海などに宿る目に見えない力を敬い、崇拝する行為は、現代でも自然に見られます。この行為は、縄文時代から培われています。

縄文時代の人々(以下縄文人と記す)は、完全に定住した生活を送っておらず、獣を狩ったり、魚介類や木の実などを採集して食料を確保していました。そのため食料の確保が困難になってきた場合、新たな食料を求め生活の場を移していきます。

以上のような生活を送っていた縄文人にとって、天候の変化は非常に敏感だったと考えられます。また、自然の脅威に対して縄文人は、自然を敬うことによって生活の安定を求めようになってきます。これが、目に見えない何かを信仰するきっかけとなっていくます。

4、縄文人の信仰

現代の我々でさえ、天候を操る事はできません。当時の縄文人にとって、台風や火山の爆発、地震など、突然起こる自然災害に対してなすすべもなく、恐怖でしかなかったらうと思います。自然の恐怖に打ち勝つため、自然を信仰しはじめた行為が、実は現代まで続く神様を信仰する習慣へとつながっていきます。

次号は、縄文時代から弥生時代に変化する信仰について触れていきたいと思えます。



大崎町の遺跡から出土した縄文土器片
※中央公民館郷土資料展示室にて公開中。

大崎町教育委員会 大野 泰輔